

保証書

[持込修理]

レシートと共に保管してください

機種	手動噴霧器(背負式) グランドマスター RW-10DX/RW-15DX		※お買い上げ日	
保証期間	お買い上げ日より1年間		※	住所
お客様	※お名前		販売店	店名
	※ご住所	〒 電話 ()		電話 ()

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無料修理をお約束するものです。
保証期間経過後の修理等について、ご不明の場合は、販売店にお問い合わせください。

株式会社 **工進**
京都府長岡京市神足上八ノ坪12

保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記載内容に基づき無料修理いたします。お買い上げ日から保証期間内に故障した場合は、商品と本書をお持ちいただきお買い上げ販売店に修理をご依頼ください。

- 保証期間内でも次のような場合は有料修理となります。
 (イ) 使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
 (ロ) お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
 (ハ) 火災・地震・水害・落雷・その他天災地変、公害等による故障または損傷。
 (ニ) 本書のご提示がない場合。
 (ホ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
 (ヘ) 消耗品は有料修理となります。(Oリング・各種パッキン)
 (ト) 腐食によって故障した場合
 (チ) 定格荷重を超えて使用した際の破損
- 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- この商品は持込修理に限らせていただきます。出張修理はいたしません。
- 本書は日本国内についてのみ有効です。

お問い合わせは…

お問い合わせの際は、機種・お買い上げ年月日・故障状況などをお知らせください。

製品の修理(見積りも含む)、製品・パーツの販売についてのお問い合わせは
購入店またはお近くの弊社製品取扱店にご相談ください。

製品の取扱方法についてのお問い合わせは

Eメール pump@koshin-ltd.co.jp

電話 ☎ 0120-075-540
 キョウトのコーシン 平日 9:00~12:00、13:00~17:00
 土曜 9:00~12:00

※年末年始・夏期休暇等・日祝日を除く
 ※受付時間に変更がある場合は、弊社ホームページにてご案内させていただきます。

KOSHIN 株式会社 **工進**

http://www.koshin-ltd.co.jp

〒617-8511 京都府長岡京市神足上八ノ坪12

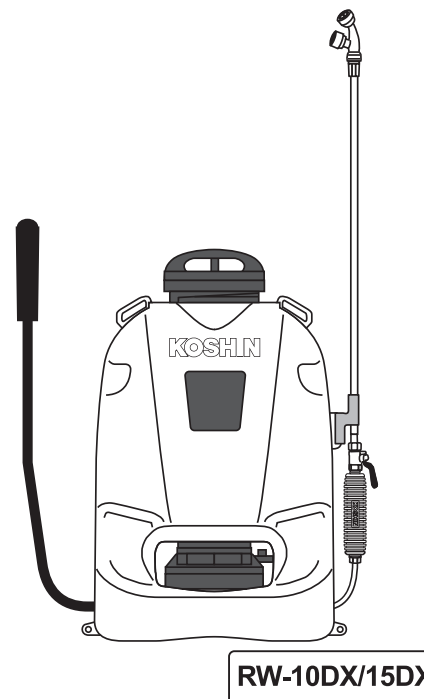
改良のため、予告なく仕様を変更する場合がございます。

手動噴霧器
(背負式)

グランドマスター

RW-10DX/15DX

取扱説明書(保証書付)



RW-10DX/15DX

●このたびは、当社製品をお買い上げ頂き誠に有難うございます。

●この取扱説明書には、正しく安全にご使用いただくための注意事項が記載されています。ご使用になる前に必ず本書をお読みになり、使用方法をご理解ください。(誤った使用法は、事故・ケガの原因となります。)

●取扱説明書は、何時でも見られるように大切に保管ください。

目次

ドリフト(飛散)対策のご案内……	2
安全上の注意……	4
各部の名称と仕様……	7
ご使用になる前に……	8
使用方法……	13
使用後の注意……	16
保守・点検……	17
主なアフターパーツについて……	18
パーツリスト確認方法……	19
故障と処置……	19
アフターサービスについて……	20
保証書	

※保証書を大切に保管ください

株式会社 **工進**

DX 16-11 045380601

もっと安全・安心に (飛散) ドリフトの少ない農薬散布を!

食品衛生法が改正され、農薬残留基準にポジティブリスト制度が導入されました。今まで残留農薬基準値が決められていなかった農薬に、0.01ppmという一律の厳しい基準が設けられ、この定められた基準を超えて農薬が残留する食品は、出荷停止・販売禁止・回収等の対応が求められるようになりました。

農薬の適正使用はもちろんのこと、散布する薬剤が周りの圃場にドリフト（飛散）しないよう、これまで以上に気をつける必要があるとともに、地域一体となった取り組みが大切となります。

ポジティブリスト制度とは

食品衛生法に基づく残留基準値が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の販売等を原則として禁止する制度です。一定量とは「人の健康を損なう恐れのない量として厚生労働大臣が定める量」として、原則0.01ppmとなっています。（いわゆる一律基準）
平成18年5月29日より施行

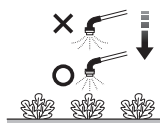
※詳しくは厚生労働省のHP等をご参照ください。

散布しようとする作物以外に農薬がドリフト（飛散）しないよう 散布時には細心の注意をはらいましょう。



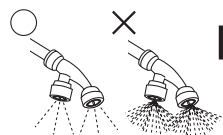
風の弱い時に風向きに注意して散布しましょう。

農薬ドリフトの最大要因は風です。風のない日や風の弱い時に散布しましょう。散布中は常に風の状況を把握して注意することが必要です。



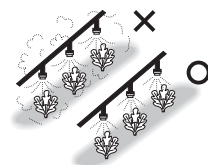
方向や位置に注意して散布しましょう。

出来るだけ作物の近くから作物だけに散布するよう心掛けます。特に圃場の端部では外側から内側に向けて散布する等、特に注意が必要です。



適正なノズル・圧力で散布しましょう。

細かい散布粒子のノズルを使用するほど、また散布圧力を高めるほどドリフトしやすくなります。必要以上の圧力で散布しないよう注意が必要です。又、ドリフトの少ないノズルに取り替えることも効果的です。



適正な量を散布しましょう。

必要最小限の量と区域で散布を行い、無駄な散布をしないように心掛けます。散布量が多くなるとドリフトする割合も大きくなります。



薬剤タンクやホースは洗いが残さないよう十分に洗浄を行い、 洗浄水は適切に処分しましょう。

薬剤タンクやホースに使用した農薬が残っていると、次の散布時に作物に薬害が生じたり、収穫物に農薬が残留してしまう等、思わぬ事態に繋がる恐れがあります。

地域一体となった取り組みが大切です。



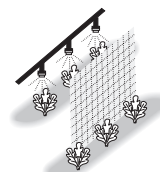
周りの作物にも登録のある農薬を使用しましょう。

より多くの作物に適用があり、収穫近くまで使える様な農薬を選定する事で、飛散した場合のリスクを低減する事が出来ます。



決められた農薬の使用方法を守りましょう。

使用前には農薬の使用方法を確認し、散布出来る作物や使用量、濃度、使用時期、総使用回数を必ず守って使いましょう。また、圃場ごとに使用した農薬や作業内容を必ず記録しておきましょう。



境界区域では農薬散布を控え、周りの作物を ネットやシートなどで遮断したり一時的に覆いましょう。

周りの圃場で収穫直前の作物がある場合は、散布日や収穫日を変更する等の調整をしましょう。

次の場合は
特に注意が必要です。

- ◇圃場同士の距離が近い時
- ◇隣の食物作物の収穫が近づいてきた時
- ◇飛散が起こりやすい散布方法・条件の時

農薬散布することを周りの生産者に伝え、
日頃からコミュニケーションをとるなど、
地域の農業従事者同士の連絡を密にしておくことが重要です。

※イラストはイメージです

安全上の注意

※ご使用の前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上正しくお使いください。ここに示した注意事項は製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は次のように区分しています。

■表示内容を無視して、誤った使い方をした時に生じる危険や損害の程度を次の表示で「警告」「注意」に区分し、説明しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告 人が死亡または、重傷などを負う可能性が想定される内容です。

注意 人が損傷を負う可能性及び物的損傷の発生が想定される内容です。

 この記号はしてはいけない「禁止」の内容です。

 この記号は必ず守っていただく「実行」の内容です。

■その他の表示：お願い…正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。

保証書はよくお読みいただき、裏面のお買いあげ日、販売店の記入をご確認ください。

警告



薬剤は誤使用・誤飲の危険がありますので、絶対に別の容器に移し替えないでください。

薬剤の空容器は、散布液調合時には必ずよく洗い、薬剤メーカーの指示に従って、その都度正しく処分してください。



幼児・子供が触れないよう、隔離処理をして安全な場所で使用・保管してください。

ケガの原因となります。



本体取扱説明書を理解していない人は、製品の操作を行わないでください。また、人に本機を貸す時は、取り扱い方法をよく説明し、使用前にこの取扱説明書をよく読むように指導してください。

借りた人が誤った本機の使い方をして、思わぬ事故につながる恐れがあります。

安全上の注意

注意



安全の為、作業中は保護マスク、保護メガネ、長袖・長ズボンの保護衣、作業帽、不浸透性の手袋、作業靴を着用してください。



炎天下で長時間作業しないでください。作業は、風の強くない、朝夕の涼しい時間を選んでください。



飲酒時、過労、病気で妊娠している時は、作業をしないでください。

このような時に作業を行うと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業する時は、必ず心身とも健康な状態で行ってください。



作業する前に、必要な点検を必ず行ってください。

ホースの接続部はしっかり締まっているか、ホースに破れや穴はないか、薬液タンクのキャップはしっかり締まっているか、等の点検を忘れないでください。点検をおこたると、薬液が漏れて思わぬ事故につながる恐れがあります。



動かなくなったり、異常がある場合は事故防止のため、直ちにご使用を中断して、お買い求めの販売店に点検・修理をご依頼ください。

そのまま使用されますと、思わぬ事故につながる恐れがあります。



改造・分解は絶対にしないでください。

故障や異常動作を引き起こし、けがの原因となります。



薬剤は有害です。幼児や子供が触れないように保管してください。また、保管方法については薬剤の取扱説明書に従ってください。



薬剤を使用する時は本機の取扱説明書に記載されている主要薬剤適合一覧表を確認の上、使用してください。

強酸性・強アルカリ性の液体、ベンジン・ガソリン等の可燃性の液体、溶剤等は絶対に使用しないでください。爆発する恐れがあります。ゴキブリ・ハエ・蚊等に用いる殺虫剤・防疫用薬品、下水・便所等に用いる消毒剤、畜産用薬品は絶対に使用しないでください。故障の原因になります。



防除、除草用の農園芸用薬剤の散布・散水用途以外には使用しないでください。



安全性を損なう恐れがありますので、40℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しないでください。



調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、薬品の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。故障の原因になります。

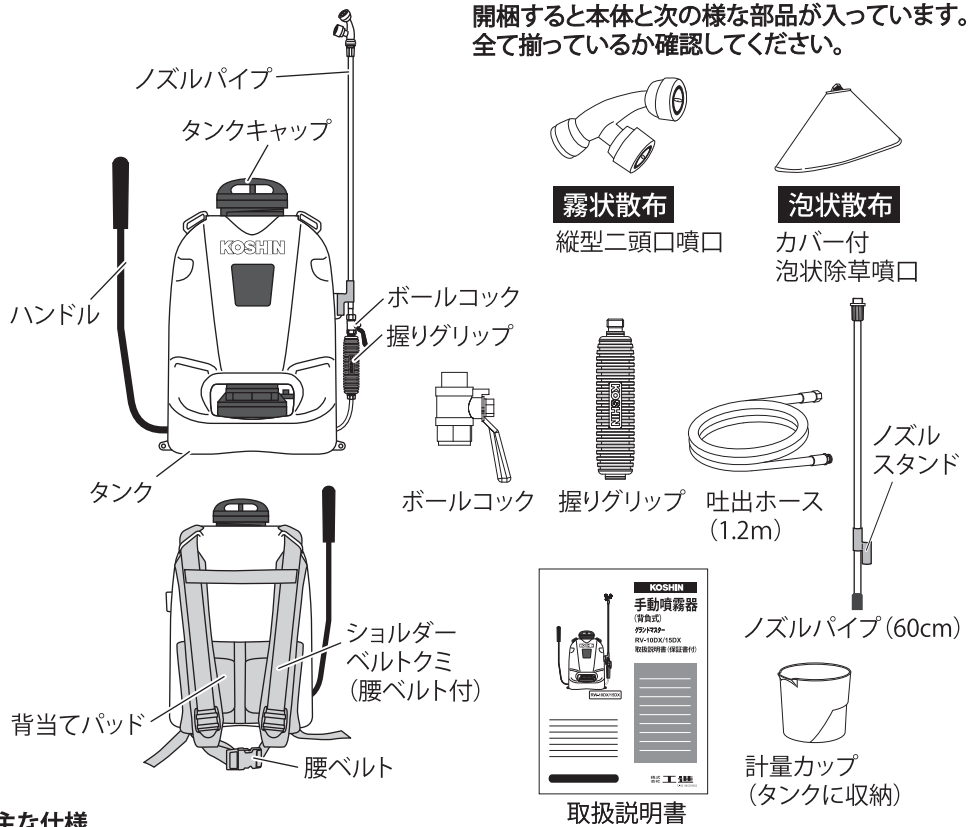
安全上の注意

⚠ 注意		
必ず守る		薬液を変える時は、必ず前の液を完全に抜いてから、新しい液を入れてください。薬剤が混ざると、化学変化をおこす恐れがあり危険です。
必ず守る		使用する薬剤については、薬剤の取扱説明書を十分にお読みの上、正しく使用してください。
必ず守る		薬剤が身体にかかった時、目や口に入った時等は、薬剤の取扱説明書に従い、適切な処置を行うか、医師の診断を受けてください。
必ず守る		少しでも体調が悪くなった時はすぐに医師の診断を受けてください。
必ず守る		薬剤が人体、家畜にかからない様に、また、川、池、沼などを汚染しない様に風向き周囲の状況を十分に確認の上、使用してください。
必ず守る		散布器具や容器を洗浄した水、残った薬剤は河川や下水などに流さず、薬害のない方法で処理してください。
禁止		ノズルを絶対に人や動物に向けないでください。ケガの原因となります。
必ず守る		噴霧状態が悪化した場合など噴口部を清掃する場合は、顔面に薬液がかかる恐れがありますので、必ず圧力を抜いてから、噴口部を取り外して清掃してください。
必ず守る		作業終了後は器具や着衣類を全てよく洗い、作業後も入浴するか、手、足、顔等を石けんでよく洗い、うがいをしてください。

〈ラベルのメンテナンス〉

製品には、注意ラベル等が貼付されています。これが見えにくくなった場合や、はがれた場合にはお買い上げの販売店に注文し、貼りかえてください。

各部の名称と仕様



主な仕様

機種名	RW-10DX	RW-15DX
名称	背負式手動噴霧器	
薬液タンク容量	10リットル	15リットル
寸法(幅×奥行×高さ)	440×201×540mm	447×247×540mm
正味重量	3.3kg	3.7kg
ポンプ形式	ダイヤフラムポンプ	
接続ネジ	噴口接続部、ノズルパイプ接続部：G1/4	

性能(RW-10DX、RW-15DX共通)

最高圧力		0.4MPa (4kgf/cm ²)	
吐出量	噴口	縦型二頭口噴口	カバー付泡状除草噴口
	常用圧力		
	0.3MPa (3kgf/cm ²) 時	約0.7L/分	約0.6L/分
	0.15MPa (1.5kgf/cm ²) 時	約0.53L/分	約0.35L/分

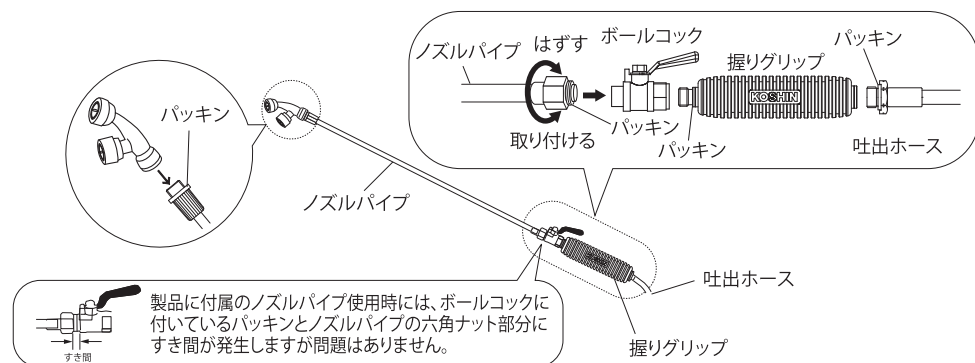
ご使用になる前に

1 確認事項

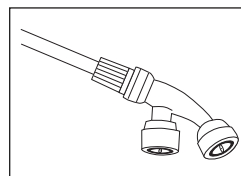
同梱されている部品が全て揃っているか確認してください。
(P.7 各部の名称と仕様(標準付属品)参照)
タンク内、及びポンプ内に少量の水が残っている場合がありますが、
これは検査時のものであり使用上に問題ありませんのでご了承ください。

2 組み立て

- 握りグリップに吐出ホース、ボールコックを取り付け、ボールコックにノズルパイプを取り付けます。各接続部にパッキンが付いていることを確認してください。



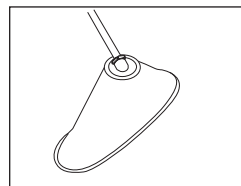
- ノズルパイプの先端に、2種類の噴口から必要なものを選んで取付けます。



霧状散布

縦型二頭口噴口

- 通常噴霧散布用
- 薬剤を噴霧状態で均一に散布できます。



泡状散布

カバー付泡状除草噴口

- 少量・通常散布用
- 葉・茎から吸収させ、植物全体を枯らす茎葉吸収移行型の除草剤に使用します。
- 風の影響を受けにくく、薬剤の飛散を防止できます。



注意

各接続部にはパッキンが付いています。必ずパッキンがあることを確認してください。
また、液漏れがない様にしっかりと締め付けてください。



注意

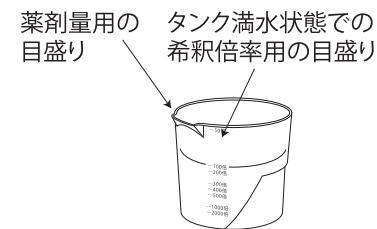
吐出ホースに亀裂、破損がないことを確認してください。

ご使用になる前に

3 薬液について

- 薬剤を希釈する

- タンクキャップを外し、ストレーナーの中に収納されている計量カップを取り出してください。
- 計量カップにはタンク満水状態での希釈倍率が表示されています。
目的の希釈倍率まで薬剤を入れて希釈してください。
- 少量の薬液を作る時は、薬剤量用の目盛りと下記の希釈倍率早見表をご利用ください。



〈イラストは10L用〉

※計量カップはタンク容量によって異なります。

〈希釈倍率早見表〉

	希 釈 倍 率 (ccまたはg)							
水	50倍	100倍	200倍	300倍	400倍	500倍	1000倍	2000倍
2L	40cc	20cc	10cc	7cc	5cc	4cc	2cc	1cc
4L	80cc	40cc	20cc	13cc	10cc	8cc	4cc	2cc
6L	120cc	60cc	30cc	20cc	15cc	12cc	6cc	3cc
8L	160cc	80cc	40cc	27cc	20cc	16cc	8cc	4cc
10L	200cc	100cc	50cc	33cc	25cc	20cc	10cc	5cc
12L	240cc	120cc	60cc	40cc	30cc	24cc	12cc	6cc
15L	300cc	150cc	75cc	50cc	37.5cc	30cc	15cc	7.5cc

お願い

薬剤の取扱説明書を十分にお読みの上、記載されている倍率に従い、
薬剤を正しく希釈してください。

2. 主要薬品適合一覧表

乳剤(薬剤を水で薄めて使用)	水和剤(粉末の薬を水で溶かして使用)
●殺虫剤 スミチオン乳剤 マラソン乳剤 ディプテレックス(DEP)乳剤 マシン油乳剤 ダイアジノン乳剤 DMTP乳剤 PAP乳剤	●殺虫剤 オルトラン水和剤 ロプラール水和剤 モレスタン水和剤 DMTP水和剤
●殺菌剤 ポリオキシシン乳剤 マイシン乳剤 サブロー乳剤 石灰硫黄合剤	●殺菌剤 ベンレート水和剤 ダイセン水和剤 ダコニール(TPN)水和剤
●除草剤 クサノンA乳液 ラウンドアップ バスタ	●除草剤 クサノンS水和剤 シマジン水和剤 2,4-D

ゴーゴーサン・トレファノサイドをご使用の場合

警告

ゴーゴーサン・トレファノサイド等一部の薬剤は使用方法を誤りますと、故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。正しい使用方法を必ず守ってください。

① 薬剤は薬剤メーカー指定の希釈倍率の範囲内で必ずご使用ください。

② 使用後は速やかに水洗いをしてください。(薬液をタンクの中に入れてそのまま放置しないでください。)水洗いはタンクの中に清水を十分に入れ、噴霧をさせ、ホース・ポンプも十分水を通して、完全に洗浄するようにしてください。水洗いは2〜3回繰り返して実施してください。

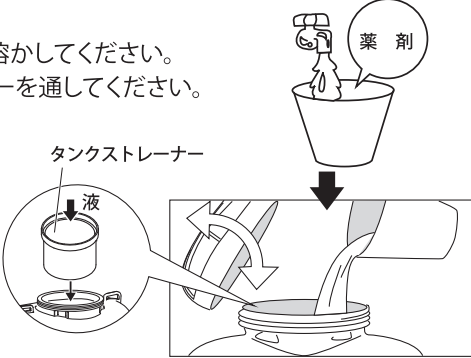
注意

一部の薬剤は正しい使用方法を守った場合でもタンク等を変色させたり、変形させることがあります。機能上は問題ありません。(万が一、少しでも異常を感じられた場合は、速やかに使用を中止しお買上げの販売店にご相談ください。)

【殺虫剤豆知識】

- 接触剤** —— 薬を害虫に触れさせて殺します。市販薬剤の多くがこのタイプで食毒剤やガス剤の作用を合わせ持つものがあり、残効性が少なく害虫の発生の度に丁寧に散布します。
- 浸透移行性剤** 葉や根から吸収された薬の成分を害虫が摂取する事により殺します。薬の効果が20〜30日間も続くために接触剤より散布回数が少なくて済みます。
- 誘殺剤** —— 害虫を誘引し、薬を食べさせて殺します。害虫の種類によりいろいろな薬剤があります。
- 展着剤(ダイン等)** 薬剤を害虫や植物によく付着させ、風雨等で流失するのを防いで薬の効果を長持ちさせます。散布液をつくる時に必ず使いましょう。

3. バケツ等の容器に水、薬剤を入れ、十分に溶かしてください。
タンクに入れる時は必ず付属のストレーナーを通してください。
石灰硫黄合剤及び水和剤を使用した場合、
噴口やストレーナーに薬剤がつまり、
霧の状態が悪くなることがあります。
薬剤はよく溶かしてからご使用ください。



- 注意**

薬剤は有害ですから、取り扱いについては必ず薬剤メーカーの指導に従って充分注意を払ってください。体に付着したときはよく洗い流してください。
- 注意**

水和剤、石灰硫黄合剤をご使用の際はバケツ等の容器でよく溶かしてご使用ください。また、ご使用中に薬液が沈殿しないように良く攪拌してください。

4. 薬の使い方

- 同じまくら早目散布**
病害虫の発生初期に薬まきを。病状が進んだ後では、同じ薬まきでも大変な手間がかかります。
- 薬の上手なうすめ方**
はじめ少量の水でよくかき混ぜてから残りの水を加えるとよく混ざります。
また、展着剤(10ページ 殺虫剤豆知識参照)を使いましょう。
- 説明書をよく読み、かけ過ぎに注意**
散布量は葉先から薬液がしたたり落ちる直前ぐらいが効果的。散布液をつくる時は、説明書の希釈倍率を守って正しく作りましょう。
- 風のない朝夕の涼しいときに散布**
日中や西日の強い高温時はさけ、薬液の流失を防ぐためにも、半日は雨の降らない日を選んでまきましょう。
- ムラなく葉の裏側へも**
葉の裏側は病害虫の隠れ場所。幹、枝、茎にも発生しますので植物全体にむらなく薬をかけましょう。
- 残った液はキキメなし**
一度溶かした薬を後日使っても効果はありません。下水等に捨てずに植物にかけるか土に捨ててください。

ご使用になる前に

5. 作業上の注意

●作業は防除用の服装で！

安全のため、農薬の付着や吸入を防ぐため、保護マスク、長袖・長ズボンの保護衣、頭から肩まで覆う事の出来る防水頭巾、ゴム手袋、ゴム長靴、ゴム前掛けを用意し、危険のない服装で作業してください。

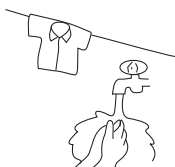


●体調のよい時だけ作業を！

少しでも体調が悪くなった時は、すぐに医師の診断を受けてください。

●周囲の安全を確認！

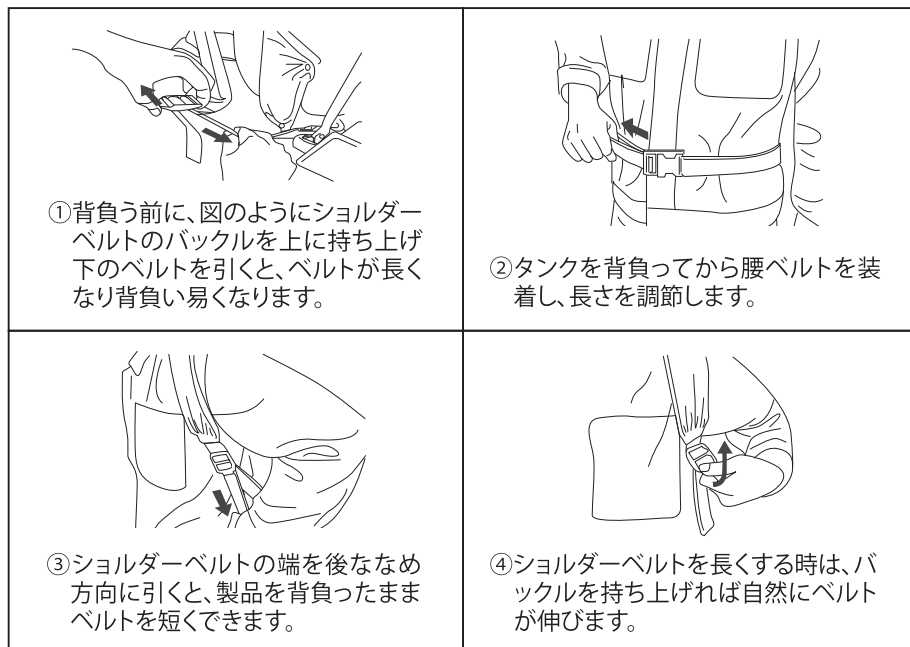
風向きや周囲の安全を確認して作業をしてください。
川・池・沼等汚染しないよう、また、人・家畜に害のないようにし、
作業者の体にもぜったい薬がかからぬようにしてください。



●すべて、よく洗う！

作業が完了したら器具や着衣類をすべてよく洗い、作業者もただちに入浴するか、または手・足・顔等を石けんでよく洗い、うがいをしてください。

④ ショルダーベルトの調節



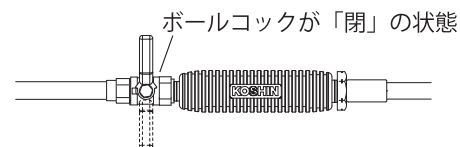
⚠ 注意

急激な操作は避けてください。急にベルトが長くなり危険です。

使用方法

① 薬液を入れる

1. ボールコックが「閉」になっていることを確認します。



ボールコックが「開」の状態

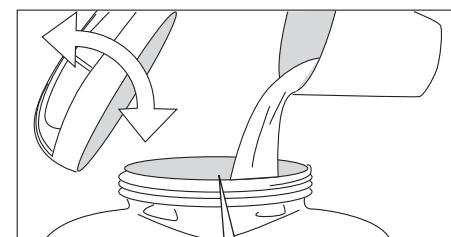


⚠ 注意

ボールコックを「開」の状態のままにして、タンクに薬液を入れようと流れ出て来てしまいます。

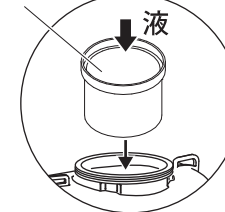
2. タンクキャップをゆるめて、はずします。

3. バケツ等の容器に水、薬剤を入れ、十分に溶かしてください。
●薬剤タンクに目一杯入れますと、傾いた時にこぼれることがありますのでご注意ください。
●タンクに入れる時は必ず付属のタンクストレーナーを通してください。
●薬剤の取扱いについて、詳しくは9～11ページをご確認ください。



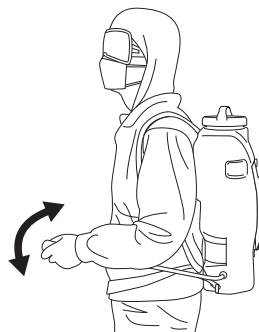
タンクストレーナー

4. 薬液を入れ終われば、タンクキャップをしっかりと締めてください。



② 加圧する

1. ハンドルを倒した状態で背負ってください。
2. ボールコックを開の状態にして、ハンドルを10回程度上下させます。
噴口の先端から薬液が出ることを確認してください。
(空気を抜く為です。)
3. ボールコックを閉の状態にして、
ハンドルを10回程度上下して加圧してください。
4. ボールコックを開の状態にすると散布ができます。
5. 数秒すると噴霧が弱くなってきますので、
ゆっくりとハンドルを動かして
加圧しながら作業を続けてください。
●毎分20～30回ハンドル操作を続けると
常用圧力約0.15MPa (1.5kgf/cm²)
～約0.3MPa (3kgf/cm²) で噴霧されます。



注意

本機は安全弁により一定圧力(0.4MPa『4kgf/cm²』)以上は圧力がかからないようになっています。無理な加圧は絶対にしないでください。



注意

加圧した状態では長時間放置しないでください。

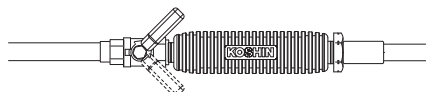
③ 噴霧させる

ボールコックの操作で噴霧量の調節ができます。

通常



少量(低圧)



レバーを斜めの状態にすると
少量(低圧)の噴霧ができます。

④ 噴口の調節 ※縦型二頭口噴口は調整できません。

泡状散布

カバー付泡状除草噴口



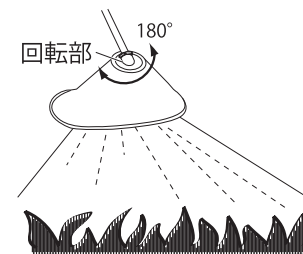
噴口が回転するので、角度を調整出来ます。
左右180°の範囲で調整してください。

⑤ 散布の仕方

○除草噴口を回し噴霧面を回転出来ます。

ポイント

雨の降りそうな日を避けて散布します。
薬剤を植物に長時間付着させることで
除草効果が上がります。



注意

噴霧中は噴口を回転させないでください。

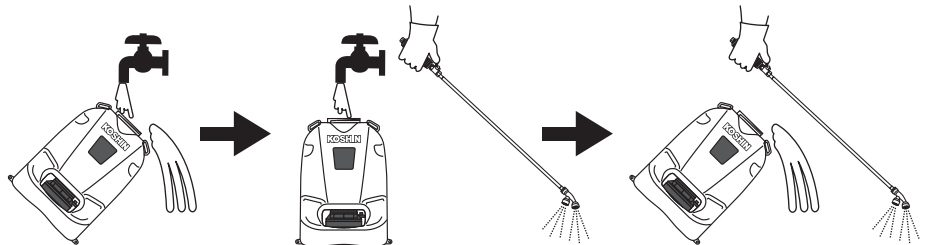


注意

噴口の調整はネジになっていますので、あまり緩めすぎると、液漏れまたは脱落しますので注意してください。逆に締めすぎるとネジが破損し液漏れの原因となります。

使用後の注意

1. 使用後は下記の方法で、ポンプ・ホース・ノズル内の薬剤を洗い流してください。



タンク内を清水でよく洗い、薬液を洗い流す。

2L以上の水をタンクに入れ、1分間噴霧する。

タンクの水を捨て、噴口から水が出なくなるまで噴霧する。

⚠ 注意

使用後は、タンク内に薬剤を入れたままにしないでください。薬剤がポンプやノズル内に残っていると薬剤が固まったり、またパッキン等が劣化するなどして、ポンプ故障の原因となります。

2. 噴口～ホース内の残液及びタンク内の残液を完全に排出させてください。

⚠ 注意

加圧された状態で接続部を取り外すと薬液が噴出する恐れがあります。接続部を外す前に周囲の状況を確認し、圧力を抜いてください。

⚠ 注意

冬季はポンプ内に残った水が凍結し、破損する恐れがあるので、洗浄後は水がなくなるまで、ハンドル操作し、完全に水を抜いてください。

3. 保管

本機洗浄後は乾燥した布で水気を拭き取って乾燥させ、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

⚠ 注意

タンク内に薬液を入れたまま保管しないでください。本機の故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

保守・点検

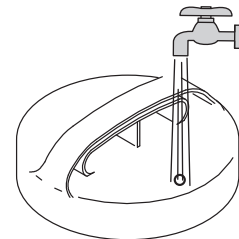
① ブリーザーの洗浄

1. タンクキャップの空気穴に、泥や汚れが付着したら、水で洗い流してください。

⚠ 注意

ブリーザー穴が詰まると散布時にタンクが“へこみ”破損する恐れがあります。

2. 製品を横に傾けたりすると、タンクキャップの空気穴から液が漏れることがありますが、故障ではありません。



② 噴口の洗浄

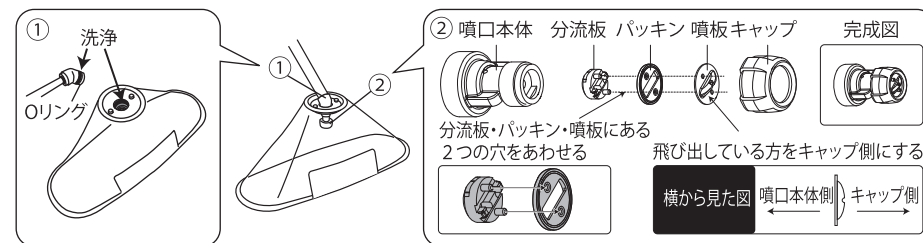
噴口を図のように外し、水洗してください。

霧状散布【縦型二頭口噴口】



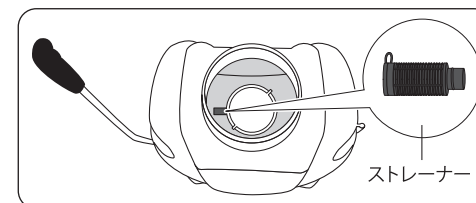
泡状散布【カバー付泡状除草噴口クミ】

- ①及び②の2カ所を洗浄してください。組み立てる時は、順番と向きに注意して組み立ててください。順番・向きが違とうまく噴霧できません。



③ 吸入ストレーナーの洗浄

- ①タンクキャップとタンクストレーナーを外す。
- ②底の方に見える吸入ストレーナーを緩めて取り外す。
- ③吸入ホースストレーナー部を清掃しゴミ等を取り除いてください。

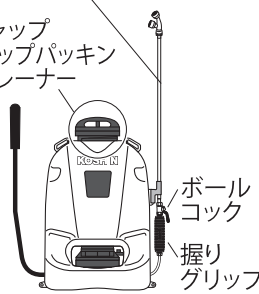
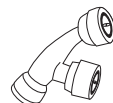
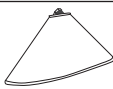


お願い

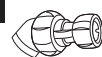
吸入ストレーナーがゴミ等でつまったりすると、噴霧不良等の不具合が発生しますので、時々清掃してください。

主なアフターパーツについて

パーツはお買い上げの販売店を通じて注文頂けます。
部品番号、部品名をご確認の上、販売店にご依頼ください。
又、下記に記載のない部品も弊社ホームページよりパーツ表、価格をごらんいただけます。
(次ページ パーツリスト確認方法参照)

部 品 名	部 品 番 号
	ノズルパイプ(60cm) (噴口・ノズルスタンド無し)
	握りグリップ
	ボールコック
	タンクキャップ (タンクキャップパッキン付き)
	タンクキャップパッキン
	タンクストレーナー
霧状散布 	縦型二頭口噴口 PA-286 [JAN]4971770-107816
泡状散布 	カバー付泡状除草噴口 (手動・電池・充電用)
	計量カップ

別売 <オプションパーツ>

製 品 名	製 品 番 号
霧状・直射散布 	自在二頭口噴口(一頭口切替) PA-288 [JAN]4971770-107830
泡状散布 	泡状除草噴口 PA-291 [JAN]4971770-107861

パーツリスト確認方法

工進製品は全てホームページ上で価格が閲覧できるようになっています。

<http://www.koshin-ltd.co.jp>

ご注文時のお願い

部品番号(7～9桁)と、部品名、必要な個数を正しくご記入ください。

故障と処置

症 状	考えられる原因	処 置
噴霧が少ない 噴霧角度が狭い 噴霧しない	加圧不足	ハンドル操作を増やす
	噴口・パイプ、吸入・吐出ホース等のつまり	分解・清掃する
	タンクキャップブリーザーのつまり	清掃する(P.17参照)
	ポンプ部の破損または摩耗	修理
	吸入ストレーナーのつまり	清掃する(P.17参照)
タンクがへこむ ポンプ下部より液漏れ	タンクキャップブリーザーのつまり	清掃する(P.17参照)
	ダイヤフラムの破損	修理
噴口、ノズル本 体、ホースなど からの液漏れ	締め付け不足	増し締めする
	パッキン・Oリングの破損、膨潤	パッキン・Oリングを点検・交換する
	亀裂または破れ	ホースを点検・交換する
液が止まらない	ボールコックのゴミつまり	清掃する
	ボールコックの破損	ボールコックを点検・交換する
加圧されない	ギヤ/ラックの磨耗・破損	修理
	ダイヤフラムの破損	修理
	Oリング・吸入・吐出弁の膨潤・破損	修理
	ポンプ内の空気が抜けていない	ボールコックを開にして 10回程度ハンドルを動かし、 空気を抜く

お客様自身が点検・整備作業についてあまり熟知されていない場合は、販売店へ作業を依頼してください。



注意 ご自分で取扱説明書記載以外の分解・修理は、絶対にしないでください。

パッキン類・Oリング類・吐出ホースは消耗品ですので、保証期間内でも有償修理となります。また薬剤の種類により寿命が短くなる事があります。